

# 第51期（2025年4月期） 決算補足説明資料

ヤーマン株式会社

2025年6月13日

# 美しくを、変えていく。

美しさを実現するものづくり。

それを生むのは、尽きることのないアイディアと卓越した開発力です。

理想の美しさをかなえ、世界中に夢や驚きを届けるために、

私たちは新しい「美のカタチ」を追求し続けます。

# 決算の概要

| (百万円)             | 第50期              | 第51期              | 対前年    | 主な増減コメント                                                                                              |
|-------------------|-------------------|-------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 売上高               | 32,023            | 25,040            | △6,983 | 国内は、直販でのコロナ禍後の外出型消費傾向の影響や、利益最大化のための広告投資抑制により減少。<br>海外は、中国での化粧品市場の低迷が影響。<br>売上構成は、美容機器80％・化粧品15％・その他5％ |
| 売上総利益<br>(売上総利益率) | 19,128<br>(59.7%) | 14,215<br>(56.8%) | △4,913 | 売上総利益率は、利益率の高い直販部門で利益最大化のための広告投資抑制を行ったことによる売上減少や、円安による仕入れコストの上昇等の影響で下落。                               |
| 販売費及び一般管理費        | 18,712            | 13,587            | △5,125 | 国内の広告宣伝費の投資は、より効率重視。<br>人件費は増加したものの、他のコストを抑制。                                                         |
| 営業利益<br>(営業利益率)   | 416<br>(1.3%)     | 628<br>(2.5%)     | +212   |                                                                                                       |
| 経常利益              | 1,010             | 310               | △700   | 持分法投資損失の減少があった一方で、前期からの円高傾向が続き、為替差損を計上。                                                               |
| 当期純利益             | 398               | 706               | +308   | 法人税等調整額の計上があった一方で、関係会社株式売却益を計上。                                                                       |
| 1株当たり当期純利益(円)     | 7.24              | 12.85             | +5.61  |                                                                                                       |

国内は、銀座旗艦店や家電量販店向けの売上が増加。新カテゴリであるヘアケアも売上に寄与。一方、直販部門では、コロナ禍後の外出型消費の傾向がもたらす影響や、利益最大化のための広告投資抑制による影響で売上減少。  
海外は、中国国内の化粧品・美容機器市場の低迷の影響により、売上減少。

| (百万円) | 売上高    |        |        | 営業利益   |        |        |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|       | 50期    | 51期    | 対前年    | 50期    | 51期    | 対前年    |
| 通販部門  | 4,215  | 3,330  | △884   | 911    | 1,003  | +91    |
| 店販部門  | 7,473  | 8,068  | +595   | 994    | 1,878  | +883   |
| 直販部門  | 8,498  | 6,313  | △2,184 | 2,672  | 1,732  | △940   |
| 海外部門  | 11,256 | 5,858  | △5,398 | 3,067  | 1,341  | △1,726 |
| その他   | 580    | 2,050  | +1,470 | 301    | 92     | △209   |
| 調整額※  | —      | △581   | △581   | △7,531 | △5,418 | +2,112 |
| 合計    | 32,023 | 25,040 | △6,983 | 416    | 628    | +212   |

(百万円)

|               | 24年<br>4月末    | 25年<br>4月末        | 増減           | 備考                   |            | 24年<br>4月末 | 25年<br>4月末    | 増減     | 備考                   |
|---------------|---------------|-------------------|--------------|----------------------|------------|------------|---------------|--------|----------------------|
| 流動資産          | 26,016        | <b>25,640</b>     | △375         |                      | 負債         | 3,976      | <b>3,539</b>  | △437   | 持分法適用<br>の負債減少       |
| 現預金           | 16,605        | <b>16,968</b>     | +362         |                      | 仕入債務       | 782        | <b>1,030</b>  | +247   |                      |
| 売掛債権<br>貸倒引当金 | 4,834<br>△980 | <b>3,943</b><br>— | △890<br>+980 | 中国向け<br>売掛金回収        | 有利子負債      | 729        | <b>595</b>    | △133   |                      |
| 棚卸資産          | 4,056         | <b>3,725</b>      | △330         | 在庫の適正<br>化           |            |            |               |        |                      |
| 固定資産          | 3,073         | <b>3,796</b>      | +722         | 保有有価証<br>券上場で評<br>価増 | 純資産        | 25,113     | <b>25,897</b> | +784   | 保有有価証<br>券上場で評<br>価増 |
| 総資産           | 29,090        | <b>29,436</b>     | +346         |                      | 負債<br>純資産  | 29,090     | <b>29,436</b> | +346   |                      |
|               |               |                   |              |                      | 自己資本<br>比率 | 86.3%      | <b>88.0%</b>  | +1.7pt |                      |

(百万円)

|                      | 50期    | 51期            | 増減     | 対前期                                                 |
|----------------------|--------|----------------|--------|-----------------------------------------------------|
| 営業活動による<br>キャッシュ・フロー | 1,931  | <b>2,215</b>   | +283   | 税前利益の増加、在庫圧縮による棚卸資産減少等の運転資金の改善、法人税等の支払いの減少等により収入増加。 |
| 投資活動による<br>キャッシュ・フロー | △950   | <b>154</b>     | +1,105 | 前期は、2023年11月に銀座旗艦店オープンによる初期投資あり。                    |
| フリーキャッシュ・フロー         | 980    | <b>2,369</b>   | +1,388 |                                                     |
| 財務活動による<br>キャッシュ・フロー | △1,347 | △ <b>1,178</b> | +169   | 前期は、設立45周年記念配当の支払いがあり。                              |
| 現金及び現金同等物増減          | 459    | <b>816</b>     | +357   |                                                     |
| 現金及び現預金同等物残高         | 16,151 | <b>16,968</b>  | +816   |                                                     |

# 中期経営計画・中期投資計画 の進捗について

## 販路拡大

新規開発事業部の立ち上げによりタッチポイントを拡大

## 新規出店

福岡空港、成田空港第2ターミナルにYA-MANカウンターをオープン  
アウトレットのPopUp出店

## 収益性向上

子会社「株式会社forty-four」の買収によりグループ全体の広告効率を改善

## 製品好調

リフトケア※特化型美顔器『リフトロジー』が好調  
で約2000店舗へ展開  
ディープリフト発売開始

\*…機器で肌を引き上げた状態で行うケアや引き上げるように動かして行うケアの総称



## ヤーマングループにおける新たな成長戦略の推進



### forty-four社の強みと ヤーマンとのシナジー

forty-four社が強みとしているインフォマーシャルを活用した効果的な販売促進のノウハウは、ヤーマングループの広告戦略・販売チャネルをより一層強固なものへ

幅広い商品カテゴリーにおける企画・開発力と品質管理体制は、ヤーマングループの製品ラインナップ拡充や、新たなヒット商品創出サイクルに貢献

### グループ連携による 新たな価値創造

ヤーマンの持つ強力なブランド力と、forty-four社の事業推進力・専門性を融合させることで、競争力の高い事業体制の構築へ

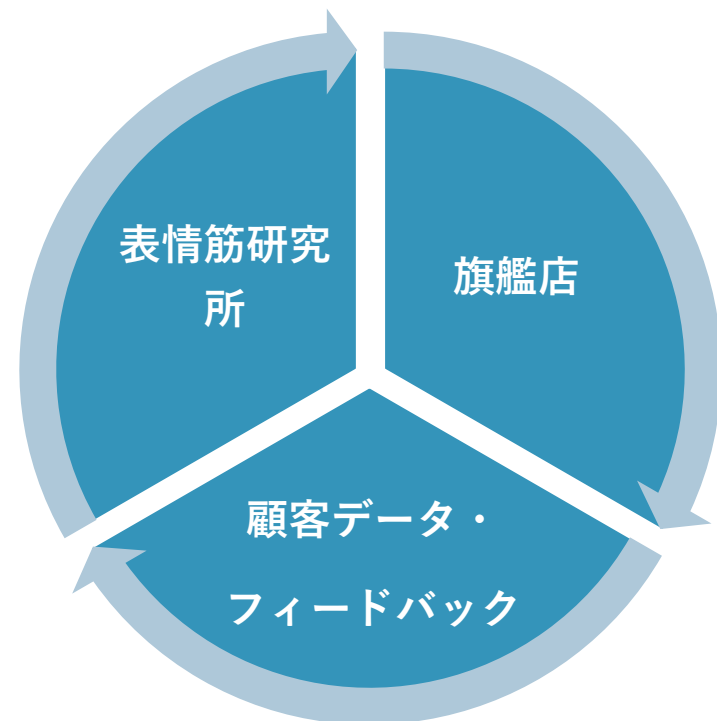
両社の強みを最大限に活かし、グループ全体の持続的な成長と企業価値のさらなる向上を目指し、お客様へこれまで以上に魅力的で高品質な商品・サービスを提供

銀座旗艦店は、2023年11月29日にグローバル フラグシップストアとして、海外の旅行者で賑わう商業の中心地・銀座にオープン。2025年1月には「アメリカの空間デザインアワード」受賞。オープン以来売上が順調に伸びつつあり、海外のお客様割合も増加。

**49の国と地域**の方が訪問して、高価格帯の美顔器をご購入

旗艦店2Fにてメディア向けの美容技術講座や体験会などを実施。

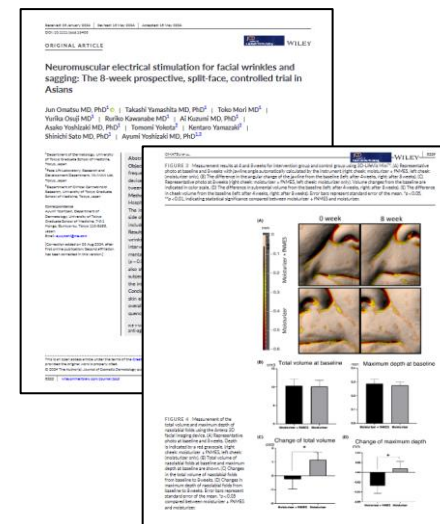
ヤーマンの技術力をアピールするとともに、参加者様から直接いただいたフィードバックや計測データを表情筋研究所へ持ち帰り、製品設計・開発へ反映。



2024年7月  
東京大学との共同研究  
たるみに効く新技術「CERTEC (R)※（サーテック）」論文発表会を開催

掲載医学誌 : Journal of Cosmetic Dermatology | Wiley (アメリカ)  
論文タイトル : Neuromuscular Electrical Stimulation for Facial Wrinkles and Sagging :  
A 8-Week Prospective, Split-Face, Controlled Trial in Asians  
(顔のしわとたるみに対する神経筋電気刺激)

新たなたるみ改善技術として、  
ヤーマン最高峰美顔器  
「YA-MAN THE MIYABI」に搭載



## 2025年1月

「メラニン産生抑制装置及び産生抑制方法」として**505nm青緑光技術の特許を権利化**



## 2025年5月

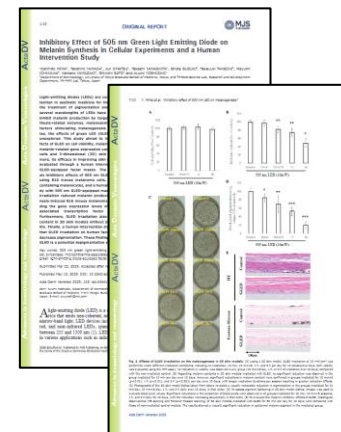
東京大学との共同研究

505nm青緑光技術による美白効果とメカニズム解明の論文が公開

掲載医学誌 : Acta Dermato-Venereologica (欧州皮膚科学・精神医学会)

論文タイトル : Inhibitory Effect of 505 nm Green Light Emitting Diode on Melanin Synthesis in Cellular Experiments and a Human Intervention Study

(細胞実験およびヒト介入研究における505 nm緑色発光ダイオードのメラニン合成阻害効果)



**確かな効果として、専門家による査読付きの国際医学誌に掲載  
独自技術として多くの製品に搭載**

## アジア市場の強化

中国市場に加え、台湾での展開を強化  
家庭用美顔器だけでなく、業務用美容機器の浸透も拡大

## 中東市場の開拓

サウジアラビアへの展開を開始し、記念イベントも成功裏に終了  
美容への高い投資意欲がある中東市場での足場を築く

## ベトナム市場への進出

アジア圏での展開をさらに広げるため、成長市場であるベトナムへの展開を開始  
美容意識の高まりに合わせた市場開拓を推進



サウジアラビアでの記念イベントの様子

## ■ 上海子会社

ホームエステブランド「mysé」の中国展開を推進。



## ■ アメリカ子会社

「BELLA 2025 Beauty Awards」等において、複数のAwardを受賞。



# 業績及び配当予想

52期は8ヵ月決算となるため、51期実績を8ヵ月換算した数字と比較しております。

(億円)

|           | 51期実績<br>(12ヵ月) | 【参考値】<br>51期実績<br>(8ヵ月) | 52期予想<br>(8ヵ月) | 対前期<br>増減額 |
|-----------|-----------------|-------------------------|----------------|------------|
| 売上高       | 250.4           | 166.9                   | 180.0          | +13.1      |
| 営業利益      | 6.2             | 4.1                     | 4.5            | +0.4       |
| 経常利益      | 3.1             | 2.1                     | 4.0            | +1.9       |
| 当期<br>純利益 | 7.0             | 4.7                     | 2.5            | △2.2       |

国内では、2025年4月に銀座旗艦店が過去最高売上を更新したほか、家電量販店などお客様と直接接する販路が堅調であったことから、旗艦店・百貨店を中心に、顧客サービスの充実と新製品のローンチを軸として、売上の伸長を目指してまいります。

また、当期において子会社化したforty-four社を通じて、インフォーマーシャルによる新規商材の販売を加速させてまいります。

その他、これまで進出できなかった販路を機動的に開拓すべく、専任の営業組織を発足させており、新規販路開発にも積極的に取り組んでまいります。

海外では、Tiktok、Red Bookといった販路での直接販売に対する投資を強化していくほか、ベトナムやサウジアラビアといった新規進出国を中心に、展開の強化を図ってまいります。

また、既存展開国につきましても、取り組み方を見直し、販売の挺入れを図ってまいります。

当社は、2023年6月に中期経営計画「Going Global Strategy」を策定し、2030年度末までに売上高1,000億円の達成を目標に掲げております。これに向けて、ブランディング・研究開発・海外展開などへの戦略的な投資を継続し、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

なお、現在、**2028年12月末に売上高700億円を達成**することを中間目標とし、新たな中期経営計画を策定中であり、**2025年12月末までに公表予定**です。

従来は、当社単独で**売上500億円**を達成した後にM&Aや資本提携を進める計画でしたが、今後はこのプロセスを前倒しし、次期以降より企業価値向上につながる成長戦略を積極的に実行してまいります。

また、海外子会社との連携強化や情報開示の透明性向上、国際比較の容易化を目的に、**決算期を現行の4月末から12月末へ変更**することとしており、移行期間にあたる次期（2025年5月1日～12月31日）は8ヵ月決算とする予定です。

独自技術の開発やグローバル展開を加速し、経営の意思決定をさらにスピードアップする必要があると考えています。

また、そのためには取締役会の監督機能を強化するとともに、中長期の戦略的議論をさらに活性化するためのコーポレートガバナンス体制が求められることから、今般、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行することといたしました。

2025年7月25日に開催予定の第51回定時株主総会において、移行に必要な定款の一部変更等についてご承認いただき、監査等委員会設置会社に移行する予定です。

2024年6月14日公表から、変更はありません。

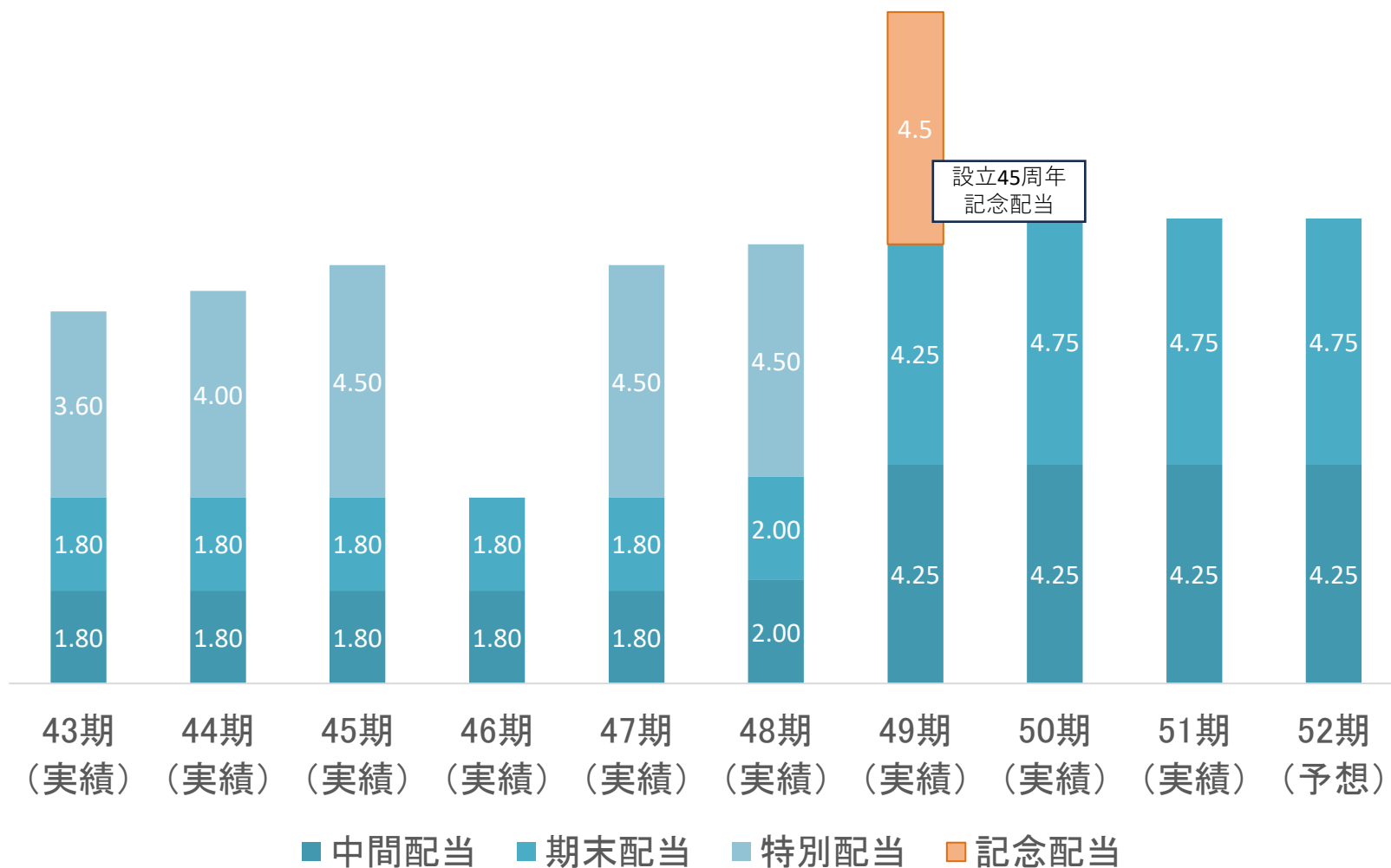
今期の配当予想は、1株当たり9.00円を見込んでいます。  
第52期は8ヵ月決算となりますが、第51期と同額の配当予想とさせていただきます。

(円／1株当たり)

|         | 52期<br>予想 | 51期<br>実績 |
|---------|-----------|-----------|
| 中間配当    | 4.25      | 4.25      |
| 期末配当    | 4.75      | 4.75      |
| 年間普通配当計 | 9.00      | 9.00      |

## ➤配当に関する基本方針

当社は、每期安定的・継続的な配当を原則とし、最終的な金額は、通期の業績等を鑑みて決定する方針です。



(注) 上記金額は、2017年11月1日付の株式分割の影響を加味したものです。

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等については、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料は皆様への情報提供を目的としており、投資を勧誘するものではありません。
- 本資料のご利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料のご利用の結果生じたいかなる損害についても、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。